

5 青島市長辭職問題

昭和8年6月26日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

沈鴻烈東北艦隊司令兼青島市長に對する部下
將校による暗殺未遂事件發生について

第九六號

青島 6月26日後発
本省 6月26日後着

二十四日午後沈鴻烈ハ檢閲ノ爲大港碇泊中ノ軍艦鎮海ニ赴キ「ランチ」ヨリ本艦ニ移乗スルヤ同艦乗組ノ大尉馮志冲ナルモノヨリ拳銃ヲ以テ狙撃サレシモ幸ニ命中セス犯人ハ其ノ場ニ於テ取押ヘラレタル處右ニ關シ中國海軍側ニ於テハ本件ハ馮ト沈ニ隨伴セル其副官トノ間ノ私怨ニ基クモノニシテ決シテ沈自身ヲ狙ヒタルモノニアラスト公表シ居ルカ五百木ノ個人的質問ニ對シ市政府周參事ハ極秘ノ含ミトシテ實ハ沈鴻烈ヲ狙ヒタルモ果ササリシ事事實ニシテ直接ノ原因ハ沈カ馮ノ阿片吸癖ヲ極度ニ叱責セルニ依ルモノナルカ元來沈ハ部下ニ對スル監督餘リニ嚴重ニ過クル爲部

下間ニ於ケル不平ノ聲相當大ナリシ折柄ナレハ今回ノ出來事モ一面其ノ一端ノ現レト見ルヲ至當トスヘク沈自身モ漸ク其ノ點ニ氣付キタルモノノ如クニテ部下ノ行動ヲ非常ニ心配シ氣ヲ腐ラシ居レル模様ナリ云々ト内話セル趣ナリ支、滿、南京、北平、天津、濟南ヘ轉電シ芝罘ヘ暗送セリ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

732 昭和8年6月26日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

沈鴻烈暗殺未遂事件に關連して青島停泊中の
東北艦隊三艦が無斷出港について

第九八號

青島 6月26日後発
本省 6月26日後着

往電第九六號ニ關シ
今二十六日早朝東北艦隊中當地碇泊ノ海振、海琛、肇和ノ三艦ハ艦長ノ留守ヲ窺ヒ無斷ニテ拔錨相率テ嶗山灣ニ向ヒ目下同地ニ在泊中ノ由ナルカ
右ハ今回ノ事件ニ關聯シ一部青年士官ノ間ニ相當根強キ不

滿ヲ抱ク者アル事實ニ基クモノト認メラルル處、沈ハ當地海軍駐在武官ニ對シ陸上ニ於テハ何等ノ動搖無ク全部自分ヲ擁護スルノ態度ヲ示シ居ルニ付事件解決モ近カルヘク從テ當地治安ニハ何等懸念無キ旨内話シタルカ頗ル事件ノ外間ニ洩ルル事ヲ心配シ居タル趣ナリ
成行目下注意中ナルモ不取敢御參考迄
外部發表見合サレ度シ
冒頭往電ノ通り轉電セリ
支、滿、南京、北平、天津、濟南ニ轉電シ、芝罘ニ暗送セリ
支ヨリ上海ニ轉報アリ度シ

733 昭和8年6月30日 在青島坂根總領事より
内田外務大臣宛(電報)

青島脱走三艦の営口または葫蘆島遁入の場合
の我が方措置振りにつき沈鴻烈照会について

青島 6月30日前発
本省 6月30日後着

第一〇五號(極秘)

往電第一〇四號本官沈鴻烈會談ノ際沈ハ自ら(一)年來自分ノ執リ來レル親日振リノ數々(二)自分ハ滿洲ニ關係セシコトアルモ張學良ノ極端ナル非妥協的態度カ日本トノ間ニ滿洲事變ヲ誘發セシメシコトヲ固ク信スルモノナルコト(三)サレハ滿洲國出現後今日ト雖モ結局日支ノ和合ヲ目標トスヘク從テ滿洲國トシテモ餘リニ性急ナル强硬政策ヲ執ラシムル事ハ日本ノ爲ニモ贊成シ難シト考フル事等ヲ縷々述ヘタル末今回ノ脱走軍艦三艘カ假ニ營口又ハ葫蘆島ニ遁入シタル場合日本側ニ於テ如何ナル措置ニ出ツルモノト思考セラルルヤ貴總領事ノ意向ヲ内密承知シ(度シ)ト訊ネタルニ付東北海軍ノ内紛ノ一日モ速ナル解決ヲ切望スル本官トシテ右ノ如キ場合ハ唯今承ハル迄豫想タモセサリシ所ニシテ斯ノ如キ事態ノ紛糾ハ勿論願フ所ニモ非サルカ夫ハ兎ニ角右ノ場合滿洲國ハ既ニ嚴然タル獨立國ナルニ依リ果シテ如何ニ之ヲ措置スヘキヤハ全ク本官ニ於テ豫想シ得ル筋合ノモノニ非ス何レニスルモ日本海軍限リ簡單ニ扱ヒ難キ複雑ナル事態ヲ生スル虞アル様感セララルカ既ニ斯ノ如キ懸念ニデモアル次第ナリヤト問ヒ返シタルニ
沈ハ未タ其ノ氣配アルニハ非サルモ自分ヲ殺害セントシタ

ル馮大尉初メ他ノ數名ノ主謀者ハ皆東北出身ナレハ萬一ノ場合ヲ心配スルノミナル處其ノ場合若シ日本カ滿洲國ヲシテ此ノ泥棒(軍艦持逃ケヲ指ス)ニ對シ庇護ヲ加ヘシメラルルカ如キコトアラハ自分ハ今日迄ノ立場上天下ニ辯明ノ途ヲ失ヒ絶對ニ自殺ノ外ナシト考ヘ憂慮シ居ル次第ニ付其ノ邊御察ヲ請フト特ニ思ヒ入りタル氣色ヲ現シタルニ依リ本官ハ右様ノ心配カアレハアル丈ケ一層一日モ速ニ當地限り事件解決ニ努力セラレ市長トシテ引續キ仕事ヲ進メ行カンコト肝要ト思考スルニ依リ右市長ノ事業ニハ本官モ及フ限リ直接間接ノ協力ヲナスコトヲ辭セサルヘシト慰メ勵マシ置キタルモ沈ハ更ニ浮キ立タス今後トモ何分宜敷御願致スモ自分トシテハ今如何ニシテ多少トモ面子ヲ立テルカカ何ヨリノ問題ニシテ今日明日トハ定マサルカ此ノ事件ノ責任ヲ取り一應總テヲ投ケ出スノ外ナシト繰返シ語り頗ル落膽シ居ル様見受ケタリ不取敢内密御參考迄
濟南、支、北平へ轉電セリ

734 昭和8年6月30日 在南京日高総領事より
内田外務大臣宛(電報)

735 昭和8年7月1日 内田外務大臣より
在中国中山公使館一等書記官宛(電報)

沈鴻烈の市長辭職が日中關係に悪影響を及ぼ
さぬよう黃郛に尽力要請方訓令

本省 7月1日後7時30分發

第一〇五號(極秘)

青島來電第一〇四號及南京來電第三四八號ニ關シ
山東省及青島市ハ駐平政務整理委員會ノ管轄ニ屬スル處從來同方面ニ於テハ韓復榘及沈鴻烈カ比較的健實ナル政策ヲ行ヒ來リシ結果日支關係ニモ良好ナル影響ヲ及ホセル一方膠濟鐵路當局中ニハ黨部ノ色彩強キモノ尠ナカラス從テ同鐵路ノ日本側ニ對スル態度ハ遺憾ノ點アリシ次第ナリ
然ルニ沈鴻烈ハ今回ノ事件ノ爲メ艦隊司令ノミナラス青島市長モ辭職ヲ餘義ナクシメラルルニハ非ルカトモ察セラルル處我方トシテハ全人ノ辭職ニシテ止ムヲ得ストセハ其ノ後任ニハ東亞ノ大局ニ通シ日本側トノ間ニ圓滿ナル關係ヲ保持シ得ヘキ人物ヲ望マサルヲ得サル次第第二ニテ万一排日的傾向アルモノ等來任スルカ如キコトアラムカ當ニ山東ニ於ケル日支ノ關係ノミナラス折角好轉シ來レル北支ノ狀況ニ

中央政治會議において沈鴻烈の艦隊司令および市長辭職願いを聴許との情報について

南京 6月30日後發
本省 6月30日後着

第三四八號

青島發閣下宛電報第一〇四號ニ關シ

諜報ニ依レハ二十九日中央政治會議ニ於テ沈鴻烈ノ艦隊司令並ニ青島市長辭職願出テヲ聽許スルト共ニ此ノ際東北艦隊ヲ中央ニ改編セント企圖シ差當リ同艦隊ノ不渡給料補給ノ爲ニ十萬元ヲ凌霄ニ交付シ同人ヲシテ裏面ニ於テ策動セシムル事ニナリタル趣ナルカ右ハ河北ノ東北軍ニ對シ氣兼モ有り旁表面北平分會ヨリ徐祖善(同人ハ威海衛ニ在リ豫テ蒋介石ノ命ヲ受ケ東北海軍ノ切崩シヲ策シ居タル由)ヲ青島ニ派シ沈ヲ慰撫シ艦隊司令ノ辭職ハ責任上已ムヲ得サルモ市長ノ職ハ當分留任スル様一應勸説セシムヘシトノ事ナリ

支、北平、天津、青島、濟南、芝罘、廣東、滿へ轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

736 昭和8年7月3日 内田外務大臣より
在中国中山公使館一等書記官宛(電報)

我が方海軍側意向に鑑み東北艦隊への排日分の進入阻止などを黃郛に要望方訓令

付記 二月十日發小磯(国昭)関東軍參謀長より真崎

參謀次長宛電報閱參滿第二〇八號

東北艦隊處理に関する海軍側方針について

本省 7月3日後7時30分發

第一〇七號(極秘)

往電第一〇五號ニ關シ

海軍側ニテハ冒頭往電ノ趣旨ニハ全然同意見ナルカ今次事

件ニ伴フ東北海軍ノ始末ニ付テハ同海軍内ニ排日的分子ノ浸入スルコトヲ防クノ要アルト共ニ其ノ間何等施策ヲ加ヘ強テ脱出三艦ヲ滿洲國ニ歸順セシムルニモ及ハス要ハ從來我方ト良好ナル關係ヲ保チ來レル東北海軍カ從來ノ形ニテ其ノ儘保存サルルニアリ(沈鴻烈ノ離任ヲ阻止セムトスル意味ニハ非ス)トノ考ニテ其ノ旨在貴地及青島武官其ノ他出先ニ電報濟ナリ

就テハ貴地海軍武官トモ連絡ノ上冒頭往電申入ノ際『東北海軍ニ排日的勢力ヲ入ルルコトナク至急紛爭解決方支那側殊ニ北支政權ノ利益ノ爲ニモ亦日支關係ニ對スル影響ニモ顧ミ望マシ』トノ趣旨ヲ附言セラレ度

本電海軍ト打合スミ

支、滿、青島、濟南、天津、南京ニ轉電セリ

(付記)

新 京 2月10日後4時45分發
參謀本部 2月10日後7時2分着

関參滿第二〇八號

將來北支政情ノ變化ニ伴ヒ支那側東北艦隊ノ處理ニ関シ當

ス

北平、天津、濟南、上海スミ

737 昭和8年7月3日

在中国中山公使館一等書記官より
内田外務大臣宛(電報)

沈鴻烈辭職問題の善後措置には我が方は強い
関心を有する旨黄郛に注意喚起について

北 平 7月3日後發
本 省 7月3日後着

第二八六號(極秘)

貴電第一〇五號ニ關シ

一、三日黄郛ヲ往訪シ沈ハ辭職ヲ餘儀無クセラレ居ルヤノ情報有ル處辭職ヲ聽許セラルル次第ナリヤ實ハ山東省及青島市ハ從來韓復榘沈鴻烈等ノ盡力ニ依リ日支關係極メテ良好ニシテ我方ニ於テモ好感情ヲ持シ居レル次第ナルニ今回若シ沈カ辭職スル等ノ事有リトセハ折角好轉シ來レル北支ノ狀況ニ面白カラサル影響ヲ及ホス處有リトテ貴電第一〇五號等ノ趣旨ヲ懇説シ本問題ノ善後措置ハ如何ニセラルル積ナリヤト尋ネタル處

地海軍側ハ左記要旨ノ意見ヲ有シアリ當方トシテモ之ヲ滿洲國側ニ歸順セシムルハ無用ナル人員ト共ニ老朽艦船ヲ背負ヒ込ム事トナリ滿洲國側ノ財政上負担ヲ増ス結果トナルヲ以テ努メテ避ケ度尙東北艦隊ハ微弱ナリト雖モ支那側ノ立場ヨリ見レハ一威力ニシテ特ニ北支那ニ於ケル政情並我北支方面ニ於ケル貿易上ニモ多大ノ影響ヲ及ホスヲ以テ北支ニ樹立スヘキ政權ノ親日ナルト否トニ拘ハラス又其歸屬ノ如何ヲ問ハス現狀ノ如ク我武力下ニ於テ青島以北ニ位置セシメ以テ我對支政策ニ利用スルヲ有利ナリト思考ス、事中央部ノ管掌ニ属スルモノ多ク小林海軍少將モ上京中ナルニ付取敢ヘス電報ス海軍側ノ方針飛行便ニテ輸送ス

左記

一、北支ニ親日政權樹立ノ場合ハ之ニ從属セシム

二、反日反滿の態度ヲ取ル場合ハ日本海軍威力ヲ以テ有効ナル壓迫ヲ加フ

三、歸順ヲ勧誘セス自發的ニ歸順ノ意ヲ表スル時ハ無條件歸順ヲ容認ス

四、南方艦隊トノ合同ニ對シテハ豫防シ油断ヲ怠ラス

五、前諸項ノ實施ニ當リテハ日本海軍ノ協力ト援助トヲ期待

二、黄ハ市長ノ職責ニ付テハ自分ノ管轄スル處ナルカ故ニ市長タル沈ニ對シ不取敢三十日慰留方電報スルト同時ニ中央ヨリモ沈ノ慰留方汪院長ニ電報セル次第ニテ之ニ對シ沈ヨリハ辭職シ度ト云フ返電ヲ受領セスト言ヘリ依テ本官ハ然ラハ艦隊司令官ノ位地ハ去リタル次第ナリヤト反問セル處黄ハ艦隊關係ハ蔣介石代理トシテ軍事委員會長タル何應欽ノ擔當スル處ナルカ自分ノ聽ケル處ニテハ何ハ先ツ艦隊トノ聯絡ヲ執ル事ニ努力中ニシテ電信ニ依ル外二人ヲ濟南經由青島ヘ派遣シタル次第ナリト述ヘタルニ付

右聯絡取レタル上ハ沈ト艦隊トノ調停ヲ計ル積リナリヤト尋ネタル處黄ハ該艦隊ハ東北人ノミヲ以テ組織シ他ノ分子ヲ入レ居ラサルニ付沈自身カ努力スルニアラサレハ艦隊トノ妥協ハ困難ナルヘシト答ヘタリ依テ本官ハ更ニ艦隊ヲ離レタル市長トシテ沈ハ充分威令ヲ行ヒ得ト思考セラルルヤト尋ネタルニ對シ陸戰隊ト警察トノ力ヲ以テ市長ノ職務ヲ遂行シ得ヘシト信ストテ上海吳鐵城ノ例ヲ舉ケ居タルニ付本官ハ引續キ右艦隊カ南方ニ合流スルコト無キヤト尋ネタル處南方ト云ヘハ結局上海カ廣東ノコ

739

昭和8年7月4日

在濟南西田總領事より
内田外務大臣宛(電報)

脱走三艦の広東方面南下および沈鴻烈留任の
見通しに關し葛光廷内話について

ヘキヲ懸念シ居リ此點ハ我政府トシテモ重大ナル關心ヲ
有セル次第ニシテ慎重考慮ヲ要望スト述ヘタル處
三、韓ハ今(次)事件ハ中央ヨリ既ニ沈ヲ慰留シ來レルモ如何
ニ收拾スヘキヤニ付未タ中央ノ眞意モ判明セサルカ國際
事情殊ニ東洋大局ニ通シ日本トノ關係ヲ保持スル圓滿ナ
ル人物ヲ得ルコトハ實際上至難ニシテ自分トシテハ沈市
長ノ留任ハ暫時的ノモノニアラサル様極力努力スル積リ
ニテ中央及河北政務會側ニ對シテモ之カ達成ヲ運動シ居
ルニ付輕々シク代ヘルコトナカルヘシト思料セラルルモ
若シ斯カル措置ニ出テントセハ山東治安ノ爲飽迄反對ス
ル決心ナリ云々ト

支、北平、青島、天津、南京、廣東、滿ニ轉電シ芝罘ニ暗
送セリ

支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

738

昭和8年7月3日

在濟南西田總領事より
内田外務大臣宛(電報)

沈鴻烈辭職問題に關し韓復榘と会谈について

濟南 7月3日後発
本省 7月3日後着

第一九六號(極秘)
往電第一九六號ニ關シ
三日韓主席本官トノ會談要領左ノ通
一、昨二日新聞ニ發表セルハ自分カ二十九日張鉞ヲ慰問旁派

遣セル當時ノコトニシテ二日張鉞ト共ニ沈ヲ代表シ葛光
廷來濟シ目下本件協議中ナル處今回ノ事件ハ沈子飼ノ青
年將校ノ反對ヲ主因トシ今迄ノ處他ニ特別ノ政治的背景
ナカリシカ如キモ發生後中央又ハ廣東方面ニテ之ヲ利用
セントスルカ如キ策動アル模様ニシテ現ニ三軍艦ハ山東
沿岸又ハ威海衛ニ入レリトノ噂アルモ今日迄ノ處確證ナ
ク或ハ廣東方面ニ逃走シ居ラスヤトモ思料セラル自分ハ
沈ニ對シ司令及市長兩職ノ留任ヲ希望シ致方ナキ場合ハ
謝ヲ司令代理トシ市長ハ絕對ニ留任方ヲ要望シタルニ中
央ヨリノ慰留モアリ沈モ市長ノ留任ニハ既ニ同意セリ

三、依テ本官ハ閣下發北平宛電報第一〇五號(黃郛ニ申入
云々ヲ除ク)ノ御趣旨ヲ敷衍説明シタル上沈カ市長職ニ
留任スルヲ得ハ好都合ナルカ若シ沈ノ心境變化又ハ其他
ノ事情ニ依リ右留任カ差當リノ事ニテ結局ハ辭職ノ已ム
ヲ得サルカ如キ場合アラハ支那全局殊ニ山東トシテハ後
任ハ東亞大局ニ通シ日本側トノ關係ヲ保持スヘキ人物ヲ
必要トスル次第ニシテ萬一排日ノ傾向アルモノ來ランカ
今日迄ノ山東ノ平和及日支ノ好關係ニ龜裂ヲ生セシメ山
東ハ勿論北支ノ狀況ニモ極メテ面白カラサル影響ヲ來ス

第一九九號

四日葛光廷本官來訪ノ節沈鴻烈事件ニ付略々往電第一九八

號ト同様ノ事ヲ語り三艦中比較的速力アル海圻ト速力遅キ

肇和ト打合セル無電カ漸次青島ヨリ遠サカリ行ク事及廣東

ニ在ル方砲臺司令トノ關係ヨリ多分廣東方面ニ南行セルモ

ノト思ハルルカ假令廣東ニ行クトモ東北系タル彼等カ重用

セラレサレハ結局立場ニ困ルヘシト述ヘタル上

一、沈ヲ狙撃セシ馮ハ本件行動ハ多人數ニテ計畫セルニ付自

分ノミヲ處刑ストモ完結スルモノニ非サル次第ヲ述ヘタル

ルニ沈ハ他人ヲ追究セス馮タケ銃殺シ解決セントシタル

モ他ノ同志ハ罪ヲ惧レ軍艦ニテ逃走シ最初三艦ノ外同安

モ逃走セシモ同艦ノミハ間モ無ク歸青セリ東北海軍トシ

テハ三艦無ケレハ相當經費節減セラルヘク青島ニ殘留セ

ル他青年將校ニ對シテハ沈ヨリ同將校ハ勿論逃走將校並

ニ青島在留ノ家族ニ對シテモ追究セサルヘキ旨ヲ申渡シ

三艦ノ所在判明次第家族モ同地方ニ送り且ツ青島ニ殘サ

レタル艦長等ノ佐官級(事件當時陸上ニ在リタリ)モ其處

ニ赴ク筈ナリ又北平ニ在ル凌霄ニハ青年將校等ニテ服從シ居ラサルニ付凌カ司令ト成リテ東北艦隊ヲ統卒スル事ハ不可能ナリ

ニ、沈ハ兩職ヲ辭シタルモ中央其ノ他ヨリ慰留セラレタレハ謝カ代理シ居ルト謂フ譯ニテモナク目下從來通ニ留任ニ決シタルモ今後ノ處置ニ付自分ハ沈ヲ代表シ韓主席ト協議中ナルカ韓トシテモ必ス徒ニ人ヲ代フルハ面白カラストテ沈ノ此ノ儘留任ニ盡力シツツアリト述ヘタリ

三、依テ本官ハ沈カ此ノ儘留任シ得ハ好都合ナルモ沈ノ留任ハ當分トナリ何等カノ事情ニ依リ數ヶ月ニテ沈カ辭職ノ已ムヲ得サルカ如キ場合其ノ後任ニハ東洋ノ大局ヲ顧念シ日支關係ヲ了解セル排日家ニアラサル人物ヲ要ス然ラサレハ折角今日迄繼續シ來レル山東ノ平和ニ惡影響ヲ及ホス懸念アリ日本側トシテモ大ナル關心ヲ有スル次第ナリト述ヘタルニ葛ハ元來中央ト韓トノ關係ハ曩ニ韓カ國稅徵收機關ヲ政府ニテ接收シタルニ依リ多少財政部ト疎隔シ又劉珍年問題ノ爲何應欽トハ意見ノ相違ヲ生シタルコトアリタルモ蔣介石トノ關係ハ從來通り良好ニシテ黃郭邊リトモ好感アリ又于學忠トモ聯絡アレハ韓ノ言フコ

トハ實際上相當重キヲ爲シ後任ニ適當ナル人物モナキコトナレハ沈モ市長就任以來二ヶ年ニナレルモ多分此ノ(儘)留任シ得ルナルヘシ云々ト内話セリ
支ヨリ上海ニ轉報アリタシ
支、北平、青島、天津、南京、廣東、滿ニ轉電シ芝罘ニ暗送セリ

740 昭和8年7月10日 内田外務大臣より 在中国中山公使館一等書記官他宛電報

東北艦隊の現状維持を望む海軍側意向に鑑み
沈鴻烈辭職問題が速やかに我が方に有利に解決するよう配慮方訓令

本省 7月10日後6時20分發

合第一三一九號

北平宛往電第一〇七號ニ關シ

脫出三艦ハ廣東ニ南下セルカ海軍側トシテハ右ハ致方ナシトスルモ其ノ他ノ九隻ハ青島ヲ中心トシ東北海軍ノ舊態ヲ維持セシメ度考ニテ(海軍側ハ從來我方ト良好ナル關係ニアリシ東北海軍軍人ノ散逸セサルコトニ重キヲ置クモノナ

ル由)出先武官ニ對シ右含ヲ以テ事件ノ急速解決ニ資スル様努力方電訓セル趣ナリ一方當方ニ於テハ必スシモ沈鴻烈ノ留任ヲ計ラムトスルモノニハ非ルモ青島市長ニ排日的人物ヲ持チ來ラサルコトヲ特ニ重要視スルハ前電ノ通りナルニ付敍上ノ趣旨御含ノ上海軍側トモ連絡シ本件力成ル可ク速ニ我方ニ有利ニ解決スル様此ノ上共御配慮相成度結果隨時電報アリ度

本電宛先 北平、濟南、青島、支滿、天津、南京、廣東ニ轉電セリ

廣東ヨリ香港ニ轉報アリ度

741 昭和8年7月13日 在中国有吉公使より 内田外務大臣宛(電報)

沈鴻烈辭職問題が日中關係に惡影響を及ぼさぬよう張群に注意喚起について

上海 7月13日後發
本省 7月13日後着

第四〇九號(極秘)

十一日須磨張群ニ面會ノ際北平宛貴電第一〇五號ノ趣旨ニ

依リ沈鴻烈ノ後任問題ニ關シ深甚ナル考慮ヲ求メタル處張群ハ實ハ沈ハ豫テヨリ部下ニ對スル態度全ク苛酷ナリシ爲部内ニ不平絶ヘサシリカ今次東北三艦ノ離反ハ多年ノ鬱積一時ニ破裂シ遂ニ今日ノ如キ毒皿的行動ニ出テタルモノニテ之ニ依リ沈ノ面子丸潰レトナリタレハ沈トシテハ假令中央ノ慰留アルトモ司令ノ職ハ勿論市長ノ方モ留任方到底困難ナルヘシ中央トシテハ此際日本トノ機微ナル關係ハ充分承知シ居リ曩ニ濟南事件ノ直前自分ヲ青島市長ニ擬シタル事アル位ナレハ沈ノ後任者ニ付テモ相當考量シ居ルナルヘク話ノ次第ハ蔣介石ニモ傳ヘ成ルヘク貴意ニ副ヒ得ル様盡カスヘシト答ヘタル趣ナリ

滿、北平、天津、南京、青島、濟南ニ轉電セリ

742 昭和8年7月15日 在青島坂根總領事より 内田外務大臣宛(電報)

市長留任が確定的となった沈鴻烈を激励について

青島 7月15日後發
本省 7月15日後着

第一二三號(極秘)

往電第一二一號ニ關シ

沈市長ハ其ノ後モ連日市政府ニ登廳執務シ居ルノミナラス
華北大運動會ノ總裁、外國人ノ應接、來往要人ノ饗宴等夏
向ノ青島市長トシテ平素ヨリモ一層多忙ニ見受ラルル處本
十五日朝九時本官ヲ官邸ニ來訪シタル上海軍事件突發以來
在留日本人側ニ於テ示サレタル種々ノ同情ニハ深く感激シ
居ル旨繰返シ謝意ヲ述ヘタルカ本官ヨリ當地ハ勿論北平、
南京等ノ情勢何レモ此ノ際市長ノ留任ヲ餘儀ナクセシムル
モノノ様認メラルルカ實情如何ト問ヒタルニ對シテハ實ハ
蔣、汪、黃三人共大イニ好意ヲ有シ吳レ居ルニ依リ海軍問
題ノ爲ノ市長辭任理由ナクナリタルモ自分ハ今回ノ精神的
打撃ト最近三週間ノ運動不足ノ結果著シク健康ヲ害シ昨今
醫師ノ注射ニテ忍ヒ居ル位ニテ靜養ノ必要アル次第ナリト

6 前滿州國駐日代表の香港訪問事件

743 昭和8年6月21日 在広東吉田總領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

和知駐在武官の策動による「帰國華僑旅行宣

伝總隊」の実体について

付記 四月三十日發在広東吉田總領事代理より内田

外務大臣宛電報第二四五号

右策動の概要について

広東 6月21日後發
本省 6月21日後着

第三二三號(極秘)
往電第二四五號ニ關シ

件 一、當地歸國華僑旅行宣傳總隊ナルモノハ中央僑務委員會ト
ハ全然關係ナキ浮浪華僑ノ無力無統制ナル集團ニシテ抗日
宣傳ニ依リ黨部ヨリ資金ヲ得居タルモノナル處一方又當地
陸軍駐在武官ニ近ツキ大亞細亞主義、王道聯盟ヲ唱フルト
稱シテ運動資金ヲセシメ居リ全ク金錢目當ニ行動スルモノ
ニテ遂ニ當地官憲ヨリ解散ヲ命セラレタルモノナルカ舊曆

答ヘタルニ付本官ハ當地トシテハ今ハ最モ肝心ナル時ナレ
ハ日支協力シテ益々山東ノ經濟發展ノ爲奮闘セサルヘカラ
サルニ非スヤト説キ勵マシタル後膠濟鐵路局ニ關シ葛委員
長(目下沈ト同腹中ト看做シ差支ナキカ如シ)ハヨク話ノ解
ル人ト存シ居ルモ從來市政府側ト異ナリ兎角日本人トノ關
係圓滿ヲ缺ク場合多キハ洵ニ遺憾ナリト述懐シテ見セタル
ニ沈ハ地方限リ解決シ得ヘキ問題ハ充分誠意ヲ以テ處理ス
ル様自分カラモ折ニ觸レテ説得ニ努ムヘシト約シ一、二週
間前ニ比レハ餘程從前ノ元氣ヲ回復セルヤニ見受ケラレタ
リ

冒頭往電通轉電暗送セリ

公使ヨリ上海ヘ廣東ヨリ香港ヘ轉報アリタシ

三月二十九日黃花崗七十二烈士堂前ニ於ケル祭典舉行ニ際
シ武官ニ對シテハ亞細亞主義宣傳ヲ誓ヒ乍ラ其ノ實最モ甚
シキ排日宣傳ヲ爲セル次第ハ冒頭往電ノ通ニシテ最近廣東
大亞細亞協會組織ノ如キ素ヨリ彼等一味ノ營利策謀ニ依リ
一時的出任セナルコトハ福州發閣下宛五月十九日附公第二
七八號並廈門發閣下宛五月八日附公第一七四號公信等ニ依
ルモ明カニシテ右公信掲記ノ林振東ナル者ハ嘗テ神戸ニ居
住セル無賴華僑ニシテ鄧宏順ナル者ト共ニ本宣傳隊ノ重要
役割ヲ務メ現在第十九支隊主任ト稱シ居ルモ本隊其ノモノ
カ前述ノ如ク無力ナル貧困華僑ノ集合ニ過キササルニ徴シ林
及鄧ノ爲人モ亦容易ニ推知シ得ヘク即チ和地武官^{和地}ニ對シテ
ハ大亞細亞主義ヲ云々シツツ福州、廈門等^{和地}到ル所反日工作
ヲ爲シツツアリ然ルニ近來內地諸新聞カ香港若ハ當地通信
トシテ陸軍駐在武官使喚ニ係ル此ノ種運動ヲ恰モ覺醒セル
有力華僑ノ自發的行動ナルカ如ク報シ居ルハ以テノ外ト言
フヘシ

⁽²⁾六月十三日ノ東京朝日紙上「廣東ニ大亞細亞聯盟運動擡
頭セリ」トノ記事ニ關シ本運動ハ實ニ陸軍駐在武官ノ手製
ニ係リ運動ノ主体ト稱スル歸國華僑團體ノ正体(ハ)前(記)